

プロセス改善に向けたヒント

～intacs 認定 VDA Automotive SPICE ガイドライントレーニングの活用～

Automotive SPICE ガイドライントレーニングの開催が始まって 5 ヶ月が経過し、すでに多くの方々にご参加いただいております。

本トレーニングは Competent Assessor 以上の資格保有者（および資格取得予定者）に対する必須の公式トレーニングという位置づけですが、Competent Assessor 以上の資格の有無を問わず、Automotive SPICE の正しい解釈を習得する上でも有用なトレーニングとなっておりますので、

ぜひこの機会にご参加をご検討ください。

Automotive SPICE ガイドラインは、アセスメントにおける解釈のバラつきを抑えることを主たる目的としたルール、推奨事項が多く定義されていますが、同時にこれらは各プラクティスの原理を詳細に述べており、プロセス改善への大きなヒントとしてもご活用いただけます。

たとえば、ガイドラインの示す推奨事項では、WBS の粒度が進捗監視・調整の間隔より長い場合に BP の評定をさげるべきであることを定めています。これは、WBS の粒度を進捗監視・調整の間隔より短く設定する（週次で監視する場合は、WBS の粒度は一週間以内が望ましい）ことで、進捗監視と調整が効果的に行えるということを示唆しています。

また、モデルベース開発に関しては、自動コード生成における検証の考え方についてルールが定義されています。

認定されたツールチェーンを用いて検証済みのモデルからソフトウェアユニットを生成している場合は、ソフトウェアユニットに対するテストが実施されていなかったとしても、SWE.4.BP4 の評定を下げてはなりません。

一方で、検証済みのモデルから生成したソフトウェアユニットに変更を加え、それに対するテストが明示的に行われていない場合は、SWE.4.BP4 の評定を下げなければなりません。

自動コード生成を行う際の上記 2 つの観点は Automotive SPICE の PAM には直接の記載がなかったため、従来は比較的アセッサによる評定が異なっていましたが、モデルベース開発の原理原則に基づいて Automotive SPICE ガイドラインにルールが定義されました。

上記以外にも Automotive SPICE の PAM だけでは直接読み解くことが難しい観点がガイドラインには多く定義されており、本トレーニングではこれらを演習を通じて深く考察しながら習得していただくことが可能となっております。

主な内容：

- ・intacs アセッサ新制度
- ・Automotive SPICE ガイドラインにおけるルールと推奨事項
- ・主要プロセスに対するルールと推奨事項の適用方法（演習）
- ・モデルベース開発、アジャイル開発等の開発スタイルに対するルールと推奨事項の適用方法（演習）
- ・共通プラクティスの解釈（能力レベル 2、3）
- ・評定の一貫性（演習）

2018/11/7 田淵 一成

[『intacs 認定 VDA Automotive SPICE ガイドライントレーニング』の開催情報はこちら](#)